

COLUMN

連載 93

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部  
教授 平岡祥孝

まずは、一言お礼申し上げます。さる11月22日の講演会ではお世話になりました。ワーカホリックと揶揄される私が浦幌町からお招きを受けて、ワークライフバランスをテーマに講演させていただきました。2回目の講演となりましたが、町長や教育長はじめ職員の方々にご厚情賜りましたこと、心からお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

過日、道内大手企業を退任された取締役経験者の方と、書店で偶然お会いしました。現役時代には学生の就職でお世話になりましたので、コーヒー店にお誘いをしました。「悠々自適ですね」と話しかけると、「ないないづくし」から開放されて、元気にやっています。辞めてよかったです」との言葉が返ってきましたので、その意味を訊いてみました。

それは「意味のない会議、楽しくない接待、トップの訳の分からない指示、能力のない管理職」でした。私は思わず口から、アイスコーヒーが噴出しそうになりました。ですが、この手の話は私も嫌いではないので、野次馬根性丸出しで、それらの

具体的な話を根掘り葉掘り聴きました。40年以上ビジネス現場を生き抜いてきた方なので、私には臨場感あふれる時間でした。別れ際に、「感情を決して表には出さないことです」と貴重な助言をいただきました。キレル暴走老人にならないためにも、あらためて肝に銘じました。

それから数日後、私も「楽しい会食」を経験することに。今は東京の本社で取締役に就かれています元札幌支店長の方から、新任の札幌支店長が元部下なので紹介したいという旨の連絡を頂きました。札幌支店長時代には、これまた学生の就職でお世話になった方でした。それゆえ氏の札幌出張に合わせて私の方で、昼食のお店を予約しました。氏から新任支店長を紹介されて、まずは型どおりの名刺交換をしました。「笑顔もなく頭を下げない人だな」との第一印象を持ちました。「人は見た目が9割」とは案外間違っていないかも。

私が最も不愉快に感じたことは、食事の時の表情でした。私と氏で話が弾んでいるときに、話の中には入ろうともせず、ただ食事をしているだけ。お箸を置くときも、醒めた感じ。氏が共に仕事をした昔話をする時、その支店長は「そうでしたわね」と返すのみ。私が話題を向けても、最低限の返事だけ。「よほど嫌な思い出てもあるの？ 嫌だったら、さっさと

と帰れ。この野郎」と、私は心の中で叫びました。また気配りのかけらもありません。私が、お茶のお代わりや食後のコーヒーを頼む羽目。最後は形だけのお礼で終わり。私が会食代を負担しましたが、後日にお礼の電話やメールがあるはずなのに。ビジネスパーソンとしては、やはり非常識でしょう。まあ、それは人間性の問題もあるでしょうね。

あくまで邪推ですが、本人は元々会食する気などなく、かつての上司に誘われたから仕方なく同行したと、受け止めました。身銭を切って、気を遣って、不機嫌な時間を過ごしたと考えると、虚しくなります。けれども何力を得たと考えれば、貴重な時間でしょうか。

会食や宴席も仕事の場であると位置づけるならば、相手に対する気配り・目配り・心配りを忘れないことですね。無礼講など、夢のまた夢では。今回は「表情も身だしなみの1つである」ことを改めて認識した次第です。初老になってもまだまだ学べるものですね。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。高校生・大学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

みんなげんき！

子育て支援センターのみんな

みんなで「アンパンマンのシャカシャカ積み木」を作りました！たくさんの方に参加していただき、親子で楽しく作りました。完成したアンパンマンを振ってシャカシャカと音を鳴らして楽しみました。おうちでもいっぱい遊んでくださいね☆

